〔大正五年四月二十二日第三種郵便物認可〕

夕刊

磐城新聞

四月二十八日發行

（日曜祭日翌日休刊）

定價一ケ月金六拾錢（郵税拾五錢）　郵金五錢

廣告料金　金六拾錢　同　金六拾錢　同　金六拾錢

編輯兼印刷者　行方鉦　行方鉦　行方鉦

福島縣平市大字平字田町十六番地　磐城新聞社

發行所　磐城新聞社

登錄番號　平局第五百五十二號

電話五六四番

途上漫筆（三）

……回之字會……

小野生

平町は郡の首府、縣下でも市に次ぐの大町である。小學校なども第一、第二と在る上に先年、第三小學校を町の東端に新設して數年經たざるに、早や第四小學校の叫びがある、此膨張力はやがて市制を布くべき導火線ともなるであらう。

第三小學校は新らしいだけに感じもよい、殊に講堂は他の其れと比して優つてし居る、これを利用せんとする會合が却て多い、現時昭和産業博開會中で、各種の會合が、夥しいので隨て其の利用も多い事に見ても、能く判る。

此の多忙の裡に講演會を開く事を承知された事は、如何に赤津校長のこの點に理解あるかを物語るものである。

第一、第二は、敷地も陽土で高臺であるので、其の眺望がよい、兩校とも貳千内外の兒童を有して、校風も傳統的に有名である、會我校長、津田校長の、校長振りは既に定評があるが、元第一校長たりし武川先生の風貌は今更、私淑するものあるに頷くだらう。

この遺風が基本となつて今日に及ぶの觀あるを見る決して、誣めるものでなからう。

第二校の校長として、これ亦終始一貫された、小野先生の德風、偲びても尚ほ餘りある、今や老後を養ふ可く佑賢學舍に、教鞭を揮つて居る、幾多の門下生今日果して如何の感がある。

世は擧げて享樂に耽ける時この天地のみは、德育の在る上に先年、第三小學校爲めに精進して居る、眞に感謝に餘りありだ。

昭和産業博覽會の開催は櫻花爛漫の絶好機を撰むだ事は賢明のやり方と承服出來るが、言はゆる物日と云ふ書き入れ日と來ると、呪はれた樣に天候の惠澤に浴し得ない觀がある、月には居る、花は嵐の譬ひ、愈々出る雲、花は嵐の譬ひ、愈々奇怪ならずや。

素地を有して堂々として膨張するものは、世間又普通であるが、何等の緣故を有せず、何等の援助なく、眞に獨立獨歩、益々大をなすものに色川材木店なるものがある、人は言ふ素行の點に首肯し難しと、されど人誰か欠點なからむ些の瑕點を捕へて大の長所を抑へむとするは、或意味に於て沒常識と批評せざるを得ず。

時代警語

○勞苦の工場は最も善き教養場なり（西俚諺）

人には各々その職分ありて力を盡すべきことであるからこの世經の工事を勉强動作することは乃ち己れの本分を盡す道である、加之も心靈の修養も自らその中に具ふものである。これ卽ち皇天の庇護を受け福迎を招く道である……

『春の野』の作者に

M生

君はいまたのしといふ
寂しきひとのあるを
知るや君　いま――
春の野は夢とかすみて
君はたゞたのしとやいふ
そのたのしさを
たのしむひとのあらむか
あはれ……

夢にのみ棄ひよる影
君われを知らず
われもまた君をも知らじ
かりの名に歌ひてし君
われもまたかりの名に歌ひて
あ、君とこそ解くるその日を
ひたすらにしのばなむ
あはれ……。

講談

お蘭陀お蝶

（15）

渡邊默禪作
布施長春畫

是には奉行も儘と面喰つた、餘の儀ならともあれ花柳界の事情ばかりは闇夜の烏、如何にせば此の戀の御取持ちが叶ふかと途方に暮れたがふと思ひ付いたのは屋敷に出入の醫者で紹庵と云ふ奴、彼奴なれば氣轉の利いた浮世の博士首尾よく病根の奥底までヒを廻すであらうと、早速若殿へ言上して急使をその家へ差向けた

程なく紹庵が駈け附けて來た

坊子頭の四十に餘る初老眼のくるりとした、鼻の底い、唇の薄い愛嬌面黑の無紋の精好へ平拮の胸紐を着けた十德を染色絹の上に被つて醫金革の足袋をはいて

彼そも是の難病に對して如何なる處方を按じ出すであらう。

奉行の曾我は、紹庵を別室に控へさせ、しばらく長七郎の御前を退いて、先づ上話を試みた。

突然長七郎殿のお召しを蒙つたことを語つてから

『時に紹庵老、お身この丸山の作法、又は遊女の風儀など、事明かに合點いたい申すのは彼奴のことでがなかろうぞ』

『と見て態と呼び寄せた、お手前大阪屋抱の遊女薄雲とな申す者存じ居るか』

『あゝ、存じ居る所の段ではおざりませぬ、大阪屋は情夫がおざりまするので、手前の古い馴染、それ煙管それへの心中立て……やれが火傷した、鏡台の腰が拔手强くも振りつけましたのけたと云ふ度毎魚老めが見恐ろしや～』

舞つて遣しますげな薄雲太夫が小白が腦天に上つたと……何と紹庵、お手前の骨折かで、手をかけたことがおざりまする、美しいものでらうては臭れやるまいか、のう三千の佳麗顏色なしと申すのは彼奴のことでがなかろうぞ、又お手前の功名、共に毀の御威な預ることぢや

『む、さもあらうぞ』

曾我は微笑んで

『お手前大阪屋抱の遊女薄雲とな申す者存じ居るか』

『あゝ、存じ居る所の段ではおざりませぬ、大阪屋は情夫がおざりまするので、手前の古い馴染、それ煙管それへの心中立て……やれが火傷した、鏡台の腰が拔手强くも振りつけましたのけたと云ふ度毎魚老めが見恐ろしや～』

『さ、其處ぢや、賴みは夫が小白が腦天に上つたと……何と紹庵、お手前の骨折かで、手をかけたことがおざりまする、美しいものでらうては臭れやるまいか、のう三千の佳麗顏色なしと申すのは彼奴のことでがなかろうぞ、又お手前の功名、共に毀の御威な預ることぢや

『む、さもあらうぞ』

曾我は微笑んで

『と見て態と呼び寄せた、お手前大阪屋抱の遊女薄雲とな申す者存じ居るか』

『あゝ、存じ居る所の段ではおざりませぬ、大阪屋は情夫がおざりまするので、手前の古い馴染、それ煙管それへの心中立て……やれが火傷した、鏡台の腰が拔手强くも振りつけましたのけたと云ふ度毎魚老めが見恐ろしや～』

『さ、其處ぢや、賴みは夫が小白が腦天に上つたと……何と紹庵、お手前の骨折かで、手をかけたことがおざりまする、美しいものでらうては臭れやるまいか、のう三千の佳麗顏色なしと申すのは彼奴のことでがなかろうぞ、又お手前の功名、共に毀の御威な預ることぢや

六韜三略の虎の卷を悉く諳んじて居りまする、御用とあらば軍師何時にても采配な振ひますぢや』

と、事もなげな大言

『む、さもあらうぞ』

曾我は微笑んで

『と見て態と呼び寄せた、お手前大阪屋抱の遊女薄雲とな申す者存じ居るか』

『あゝ、存じ居る所の段ではおざりませぬ、大阪屋は情夫がおざりまするので、手前の古い馴染、それ煙管それへの心中立て……やれが火傷した、鏡台の腰が拔手强くも振りつけましたのけたと云ふ度毎魚老めが見恐ろしや～』

『さ、其處ぢや、賴みは夫が小白が腦天に上つたと……何と紹庵、お手前の骨折かで、手をかけたことがおざりまする、美しいものでらうては臭れやるまいか、のう三千の佳麗顏色なしと申すのは彼奴のことでがなかろうぞ、又お手前の功名、共に毀の御威な預ることぢや

『ハツア、とは如何なる椿事が』

『彼室に在らせられる若殿の、ご家來衆が漸くのんじて居りまする、御用とあらば軍師何時にても采配な振ひますぢや』

田園を永遠に繋ぐ
愛谷江の前途を祝福
萬頃の

來賓關係者數百名參列し
けふ盛大に竣功式典を擧ぐ

慶報、愛谷堰農業水利改良事業工事竣功報告祭は今二十八日定刻より稍々遲れ午前十時十五分平窪村堰傍の空地に於て、村井知事代理赤土内務部長、鈴木代議士木村前同上外多數來賓關係者數百名列席、夏井村大崎魂神社山名隆文社司以下神職數名參列既報順序により祭式を了り引續き竣功式に移つて

知事式辭、工事報告（市橋耕地課長）來賓祝辭（鈴木代議士、野崎縣議、平窪村長草野常彌、水利議員青木清太郎、水利組合管理者夏井村長阿部瀧藏）祝電（山本農林大臣、佐藤代議士其他）

あり、それより功勞者

青木清太郎、根本莊橋、猪狩彌作、松崎恒吉、根本久治、中田松之助、伊藤淺之助、江尻彦太郎、酒井粂吉、阿部利助、澤田傳平、小林榮八、鈴木治吉、鈴木德吉、鈴木文十郎、木田隆作、鈴木辰三郎、青木又治、（故）高木長吉、其他

を表彰して式を終り餘興の民謠花角力等に興を添へ盛會裡に二時閉會した、知事の式辭及鈴木代議士の祝辭要旨次の如し

式辭

茲に石城郡愛谷堰農業水利改良事業工事全く成り竣功式を擧ぐるを得たるは本官の欣快に禁へざる處なり今や内外の情勢を察するに最も重大なる時機に臨めると云ふべし就中經濟界の恐慌は失業者を增加せしめ人口食糧の不均衡なる趨勢は社會の根底を動搖せしめんとす而して之を解決するの途多しと雖農業水利の根本的改良をなし以て產業の增殖なすより急なるは無鐵條網を粉碎し就職路を開し、愛谷江水利の改良はこの藩政時代に始まり先人苦心の存する處にして萬頃の田園遠く連り禾穀穰々として今日の隆運を致せり然りと雖近年數次の水害により漸次廢頽に歸し利用厚生の途全からず是を以て愛谷堰並に幹線水路の改良計劃を立て縣會に諮り國庫補助の恩典に浴し更に關係地方の協力に依り大正十五年起工以來年を閲する事六年資を投ずる事二十六萬餘圓にして茲に完成を見るに至れり望むらくは關係村克く和衷協同以て維持管理に善處し奮勵以て豫期に從ひ農事の改良發達を遂げ國富の進運に寄與せられん事を一言叙して式辭となす

福島縣知事　正五位勳五等　村井八郎

祝辭（演說要旨）

本堰の完成は關係地域内に於ける永い間の灌漑水利問題を解決し而も一擧兩得の福音を齎らしたものとして地方民の爲寔に慶福に堪へない處である

即ち平町をはじめ四ヶ町村の農民は之の水利を大動脈として生活を維持し來つたのであるが常に上流五百町歩との間に利害相反し而も上流には惡水豫防組合と云ふ救濟施設あるに對し下流には之の事無く水害毎に少からず難澁して來た處最年耕地整理法の實施を見るや同法に基く縣下第一次の事業として其の改良に着手せられ工事の成績如何は眞に同法運用の將來を支配するものとして其の成否を刮目されたが幸にして茲に設計通りの完成を見、永年の問題であつた水路堰の支障を根本から除去し得た事は當局の指導監督宜しきに適し一面關係諸氏に於ける努力の賜として衷心其勞を感謝すると共に滿腔の敬意を拂ひ茲に謹んで祝意を表するものである

代議士　鈴木辰三郎

佐藤校長寄附　佐藤内郷校長は此程平女青、同窓會職員倶樂部へ各十圓を寄附したと

△嫉妬の七首　東京府下山小富操（四）同福島榮一（三）の兩名は英田郡林町松の太郎が本年一月同家に宿泊し妻いつと姦通したので萬太郎に對し告訴爲さざる條件の下に牡牛二頭時價二百圓を提供せしめたる事發覺調べ中である

△猫が猫自殺　東京市日本橋區高砂町七藝妓置屋吉の雜踏に比例して平時の倍り超尖端的の忘れものとして袖にされるやうになつたので一昨年七月上旬で治三郎を刺殺したものである

△藝妓を失敬　津山市横二四五農多兒傳市（五三）は御留守で娘するの（三）が獨應急手當を加へたが生命危が主なるものは風呂敷、洋氣分である

△姦通代償牛二頭　岡山縣久米郡堺和村大字東堺和伊太郎方を訪問した折家人嚇下して苦悶中家人が發見百三十三件の多數に上つたなど如何にも花時らしい